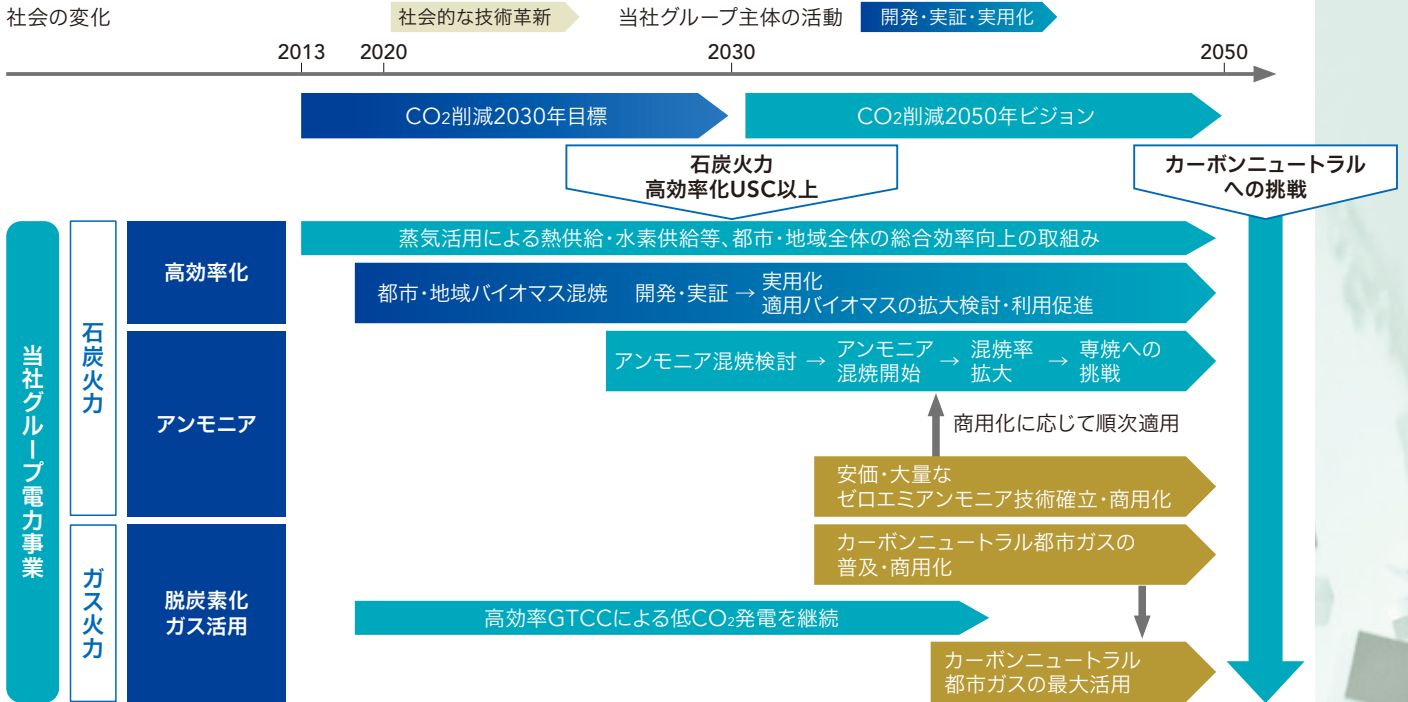


## 電力事業のカーボンニュートラルに向けた取組み

神戸発電所の石炭火力発電では、発電所の蒸気を活用して周辺地域に熱や水素を供給することで、地域全体でエネルギー利用の効率化を図っていきます。さらに、電力事業部門とエンジニアリング事業部門が連携し、バイオマス燃料（下水汚泥、食品残渣）の混焼、アンモニア混焼等のCO<sub>2</sub>削減の取組みを強化し、世界最先端の都市型石炭火力発電所を目指していきます。また、真岡発電所のガス火

力発電では、高効率GTCCによる低CO<sub>2</sub>発電の安定操作を継続します。

さらに、神戸発電所では、アンモニアの混焼率拡大を進め、最終的には専焼へ挑戦していきます。また、真岡発電所では、カーボンニュートラル都市ガスの最大活用を検討しており、これらの施策により2050年のカーボンニュートラルへ挑戦し、達成を目指します。



アンモニア混焼については、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の助成事業で開発中の技術起用等、実用化に向けた取組みを進めるため、国の施策及びNEDOを中心とする技術開発の動向をフォローし、社内での詳細な検討を推進しています。

また、2021年度に（株）神鋼環境ソリューションは、下水汚泥燃料化事業を2件受注しており、同社と共同で下水汚泥由来のバイオマス燃料の混焼及び抽気蒸気の利活用に向けたプロジェクトを推進しています。

（株）神鋼環境ソリューションの取組みは、P.62をご参照ください。

### 下水汚泥燃料化～水素製造供給の取組み

